

O022-P09

会場:コンベンションホール

時間:5月23日 16:15-18:45

茨城県における地質観光情報の開発とその利用による地域振興 - 茨城県北ジオパーク構想での活用 - Development and utilization of geological information in Ibaraki Prefecture -Application for North Ibaraki Geopark plan-

小畑 大樹^{1*}, 齊藤 千帆¹, 滝本 春南¹, 関子田 香織¹, 細井 淳¹, 茨城大学地質情報活用プロジェクト¹

Taiki Kobatake^{1*}, Chiho Saito¹, Haruna Takimoto¹, Kaori Zushida¹, Jun Hosoi¹, Ibaraki University Geological Information Utilizing project team¹

¹ 茨大・理・地球

¹Environmental Sciences, Ibaraki Univ.

現在日本では、地域の特徴を活かした観光が盛んになっている。グリーンツーリズムやエコツーリズム、産業ツーリズムなどの地域に根ざした観光は、地域の活性化に加え、生涯学習の場としても有用である。その中の一つが「ジオツーリズム（ジオツアー）」であり、これはその地域特有の「ジオ（地質や地形など）」とそれに関与する歴史や文化・自然などを楽しむ観光である。この「ジオツーリズム」の中心となるのが「ジオパーク」である。「ジオパーク」は、科学的に重要な地質遺産を見どころとした自然の公園であり、地域の文化や教育・観光などに関連して地域の活性化を図るという点で、他の国立公園とは異なっている。2009年に洞爺湖有珠山・糸魚川・島原半島の3地域が、2010年には山陰海岸が世界ジオパークネットワークに認定された。日本ジオパークネットワークに認定されたジオパークは、2011年1月現在14箇所となり、全国各地でジオパークの設立を目指す運動が活発化している。

茨城県北地域は2010年、茨城県北ジオパーク推進協議会が発足し、2011年の日本ジオパーク認定を目指している。この地域は大都市から集客し、地元経済の活性化効果をはかることを目指しているという点でひとつのモデルとなり得る地域である。

茨城大学の地質学を専攻する学生を中心とした茨城大学地質情報活用プロジェクトは2007年に発足した。活動を通じて、一般の人に難解で理解しがたい地質情報を観光情報へ変換することを試みてきた。その成果をまとめて、茨城県内の14地域において「地質観光まっぷ」や、地質に関係のある見所を集めた「茨城県北ジオポイントマップ」を作成した。これらはいずれも極力専門用語の使用を控え、ジオに限らずジオに関係のある歴史や文化・植物についても紹介している。また、「地質観光まっぷ」はイラストを多用することで、各見所の特徴や地域の成り立ちについて分かりやすくまとめた。さらに「地質観光まっぷ」作成地域において、プロジェクトメンバーが現地一般の方々を対象として「地質観光まっぷ」を用いた案内・解説を行うジオツアーを実施した。これまでに頻繁にジオツアーを行なった地域は、袋田の滝と水戸・千波湖である。袋田の滝は観光名所として有名である。袋田の滝ジオツアーでは従来の観光スタイルである袋田の滝の観瀑に加え、なぜ袋田の滝が誕生したのか、袋田の滝誕生までのジオから見たストーリーを紹介している。水戸・千波湖ジオツアーでは都市の中に眠るジオを発掘し、新しい目線で水戸を見ている。地質情報活用プロジェクトは毎年数回ジオツアーを開催しており、これまでに合計で約250名の市民の参加があった。

2010年、茨城県北ジオパーク推進協議会の発足以降、私たちは茨城県北ジオパーク構想と関連して、活動を展開してきた。ここ1年間の活動としては、茨城県北ジオパーク推進協議会に加盟する市町村のうち、一昨年度までに地質観光まっぷの整備されていない4市町村（高萩市、東海村、常陸太田市、常陸大宮市）の「地質観光まっぷ」を作成した。また、これまで作成した「地質観光まっぷ」を、ジオツアーのモデルコース設計に役立てた。それらをまとめて、茨城県北ジオパーク構想の全体的なストーリー「茨城県北ジオパーク構想～新・常陸国風土記（自然編）～」を作成した。茨城大学が主催したインタープリター（地元解説員）養成講座の補助や茨城県北ジオパーク推進協議会主催、共催のジオツアーの開催や補助、看板の設置場所の下見や内容の骨組作成など、茨城県北ジオパーク構想の活動全体に携わった。現在、茨城大学地質情報活用プロジェクトは茨城県北ジオパーク運営委員会の一員として活動している。

キーワード: 茨城, ジオパーク, ジオツアー, 地域振興

Keywords: Ibaraki Prefecture, Geopark, geotourism, regional development